

# Principal Correspondence

## 新しい御世に新しい試みを

2019年度のリリーベール小学校へようこそ。

ご入学・ご進級おめでとうございます。4月が終わると一ヶ月で新しい御世となり元号も変わります。

全国的にも珍しい、幼小連携教育のために開校した学校ですが、4月より創立16年目を迎えます。今年も変わらず、校訓に「**自立・創造・リーダーシップ**」を掲げて、毎日の実践の中で育て参ります。なぜなら、私たちは「**幼児期から10歳前後までの教育こそが、その人の脳の器をつくり、人格をつくり、人生を左右する最も重要な時期である。**」との理念を持っているからです。

偉人と言われる人に共通しているのは良い学歴を手にしたことでなく、心豊かで好奇心に溢れた少年少女時代を過ごしていることです。

私たちは、国立や公立校にはできない、独自の科目や豊富な体験活動を通して、H<sub>2</sub>Q（人間性知能・コミュニケーション能力・創造性等）と、多重知能（基礎学力I<sub>2</sub>Q・基礎体力・芸術的知能）を偏り無く育みます。さらに、**臨界期を終えた10歳以降は創造性教育に取り組み、「課題設定」「課題解決」能力の育成に力を入れていきます。**6年生は卒業研究活動を行い、OECDと言われる、21世紀型学力の養成に取り組みます。

また、16年を期に10歳以上の少年少女（4・5・6年生）を対象に、リリーベール少年少女合唱団を創設します。2名の音楽専任講師と担当教諭を中心に、年間を通じた活動を通して美的知性・音楽的知能を育みます。



私たちリリー学園の職員・スタッフは、

「いつもあたたかく…。いつもあたらしく…。」

この言葉を行動規範として常に新しい試みを忘れず教育にあたります。

新しい時代とともに、かけがえの無い幼児期と少年少女期を提供できるようにチャレンジして参ります。

# Principal Correspondence

## 子どもに適度の競争を

一昔前、平等教育が行き過ぎて小学校の運動会で足の速い子は後ろからスタート、遅い子は前からスタートし最後に手を繋いでゴールする徒競走という教育が行なわれたことがありました。嘘でしょう？都市伝説では？という疑問がありました。「東洋経済・学力の経済学特集」に記事がありました。

大阪大学大竹文雄教授によると、この反競争的教育は中部地方、関西、九州に多く子ども時代にこういう教育を受けた子どもは大人になってからグループで協力することを好まず、人に頼みごとを聞いてもらってもあまりお返しをしない。逆に他人にいやなことをされたら仕返しをするという「倍返し」のような傾向が強かったというのです。

「一人ひとり多様性を認めること」と「競争すること」も大事な教育です。「適度な競い合い・競争」は人間として大事なものを育ててくれるのかも知れません。それは時に「刺激」であり「モチベーション」であり「がんばる心」を育てることでもあります。

子どもたちはいろいろな分野で競争して学んでいます。「足の速さは〇〇君だ」「英語は〇〇さんがうまい。」等々、互いに評価をしているのです。



そして小さな挫折や課題を乗り越えようと燃して頑張ること、それは自然なことです。

さらに、負けて初めてわかる「負けた者への心情の理解」・・・「惻隠の情」は日本人だけが持つ高度な道徳性を備えた豊かな感情と言われます。この感情が解るかわからないかで日本人のアイデンティティとする文学者もいるほどです。



「誰も皆いつでも何処でも平等だ」と言って、競争を否定する教育によってかえって他人のことを考えない気質が身についたとしたら、結果その子が社会で受け入れられなくなってしまふことになります。よしんばもし競争なく平等に学校生活を終えても、その子が大きくなって放り出される実社会は猛烈な競争社会であり、時に不条理なものです。人はそれに耐えて乗り越えていかねばなりません。

